

平成 27 年 8 月の解説（府県天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は、太平洋高気圧が本州付近に張り出し、北日本から西日本にかけて晴れて気温が高くなった日が多く、各地で日最高気温が 35 以上の猛暑日となりました。特に、東日本ではかなり高くなりました。また、気温の上昇に伴い、大気の状態が不安定となって内陸部を中心にとりどころで雷雨となり、埼玉県や和歌山県などで大雨となったところがありました。北海道では、旬の後半に前線が南下し、太平洋側を中心に局地的に大雨となりました。沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われ晴れた日が多くなりましたが、台風第 13 号の影響で 7 日から 8 日にかけて曇りや雨となり、先島諸島では暴風雨となりました。また、8 日から 9 日にかけては台風第 14 号が小笠原諸島に接近し、小笠原諸島では暴風雨となりました。

中旬は、オホーツク海からカムチャツカの東にかけての高気圧と日本の南海上の太平洋高気圧との間で本州付近が気圧の谷となり、北日本から西日本にかけて低気圧や前線の影響を受けやすく、11 日には北海道で、12 日には長崎県で大雨となりました。特に、西日本では日本海側を中心に降水量が多く、旬平均気温が低くなりました。また、大気の状態が不安定となってとりどころで雷雨となり、北海道や埼玉県、神奈川県などで竜巻などの突風による被害が発生しました。

下旬は、非常に強い台風第 15 号が沖縄・奄美に接近し、25 日に熊本県に上陸した後、日本海に進み、26 日に温帯低気圧に変わりました。このため、沖縄・奄美や西日本では暴風雨となり、各地で猛烈な風と雨による被害が発生しました。石垣島（沖縄県）では 23 日に最大瞬間風速 71.0m/s を観測し、通年での 1 位の値を更新しました（統計開始 1941 年）。また、雲仙岳（長崎県）では最大 1 時間降水量が 134.5mm と通年での 1 位の値を更新する（統計開始 1941 年）など、九州や山口県で猛烈な雨が降ったほか、沖縄・奄美や西日本、東海地方で大雨となりました。北・東日本では、オホーツク海から高気圧が張り出し、北東から冷たく湿った空気が流れ込んだため、気温がかなり低くなり、東北太平洋側や関東甲信地方を中心に曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、西日本で低くなりました。月降水量、沖縄・奄美ではかなり多く、東日本太平洋側と西日本で多くなった一方、北日本日本海側ではかなり少なくなりました。月間日照時間は、沖縄・奄美でかなり少なくなりました。

【8月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 3 ポイント高い 82% で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 77% でした。各地方の適中率では、明日予報は北海道と関東甲信以外の地方で高くなり、特に九州南部と沖縄地方で 10～12 ポイント高くなりました。明後日予報の適中率は、特に九州北部・南部で 13 ポイント高くなり、その他の地方では概ね例年と同様でした。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.5 となり、特に東海地方で 0.5 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1 小さい 1.0 となりました。

^(注) 例年値は気象庁 HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の天気予報の利用にあたって】

秋になると日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過するようになり、天気は数日の周期で変わるようになります。低気圧の通過後に北寄りの冷たい風が吹いて気温が下がり、その後高気圧に覆われて気温が上がるなど、寒暖の変動が大きい時期もあります。また、低気圧が急速に発達しながら日本付近を通過する際には、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。天気予報により大雨や強風などが予想された場合は、最新の気象情報や警報、注意報などに十分留意して下さい。